



校章の由来

県立三中を意味した三つの剣を組み合わせ、初代大屋校長の考えで剛健・真剣・勤儉の三けん、更に智・仁・勇の三徳を兼ねた象徴として用いられて来た

厚高同窓会報

<第52号> 2018年(平成30年) 5月1日(火) 発行
<http://www.atsukou-dousou.org>

旧制中学卒業者 3,915名
新制高校卒業者 27,127名
合 計 31,042名

発行
神奈川県立厚木高等学校同窓会

編集
厚木高等学校同窓会広報委員会
TEL 046 (221) 4078
FAX 046 (222) 8243



財政基盤の向上により 熱き母校愛に応える



同窓会会長
曾根 秀敏 (高14回)

私儀、昨年の総会におきまして、計らずも会長職続投を仰せ付かりました。幸いにも役員増員体制も整えていただきましたので、引き続き微力ではありますが、役員一丸となって諸課題に取り組みたいと存じます。

1期目を振り返ってみますと、会員皆様の絶大なご支援ご協力のお陰で、受け継いだ組織と活力を弛ませることなく堅持でき、躍進する母校への寄与も継続できてきたと思っておりますが、2期目に当たり懸念しておりますことは、前号でもご紹介申し上げたとおり、活動の基盤となる同窓会費収入の脆弱さが顕在化しつつあるということがあります。

去る3月1日、母校の卒業式に出席し、例年の如く祝辞の中で卒業生に同窓会入会への感謝を申し上げて参りましたが、頂戴する入会金が今や収入の主要財源となっている現実を誠心苦しく感じた次第であります。同窓会活動が活発化しているにも拘わらず、新たな参加や会費納入に繋がっていない現状を打開すべく、昨年の財政基盤検討委員会報告の強化策に沿って具現化して行くことを役員会においても確認し、始動したところであります。

広報活動の充実や納入奨励は勿論ですが、広く若年層から共感を得られる事業の検討など、「不易流行」の視点で伝統的厚高スタイルを守りつつも、時代の流れに則した変化や工夫も加える姿勢の必要性も感じています。地域社会に関わる事業に踏み出した支部の存在や校歌祭における現役生と接点を持つ新スタイルなどは、その手掛かりを示してくれています。

同窓会活動は多くの参加があつてこそ発展があります。多くの同窓生の参加を請うための新たな道の開拓に向け、母校愛熱き同窓諸氏には、引き続き余熱をお貸し下さるようお願い申し上げます。

本部活動報告

平成29年度の主な事業報告

同窓の新たな交流を促進し 母校支援に取り組み

感動的な出会いの 校歌祭

平成29年度の同窓会活動の主な事業を報告します。

まず、平成29年9月30日に開催された「第12回青春かながわ校歌祭」について、報告いたします。12回目の開催となった校歌祭は、会場が厚木市文化会館で開催されました。厚木市での開催は厚木高校が主管を務めた第4回以来8年ぶりです。厚木東高校常盤会が主管となり、県内26校の同窓会が参加し盛大に開催されました。

我が厚木高校同窓会は、第一部



故郷の校歌を熱唱する「母校で校歌を歌い隊！」

の最初に登場。「厚高文化」チャ☆ダン」をテーマに、同窓生と現役生徒(野球部とダンスドリル部)とともに校歌・応援歌を歌い上げました。

また今回の校歌祭では感動的な出会いがありました。特別出演として、2017年4月から休校となっている、福島県立富岡高校の元教員や卒業生有志で組織する「母校で校歌を歌い隊」が特別招待され、ステージ

に立ちました。

同校は7年前の東京電力福島第一原子力発電所の事故で、避難地域に指定された地区の県立高校のひとつで、同校は、制限付きで町への立ち入りが許可されて以降、月に1回誰もいない校舎に集まり校歌を歌い続けてきたそうです。

この日の早朝、地元福島を出発した16名と、厚木市ほか首都圏に避難している同窓生が加わり、厚木高校の前に登場し、なつかしい故郷の校歌を立派に歌い上げました。その後、客席から厚木高校の演技を鑑賞した富岡高校の皆さんに、厚木高校から「がんばれ、がんばれ、富岡」とエールが送られました。富岡高校のメンバーの中には感極まって、ハンカチで目頭を押さえる場面もあり、暖かい友情を育むことができた瞬間となりました。

報告 厚高同窓会財政基盤強化策について

同窓会員相互の親睦、交流を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的とする活動は会費等の納入による、全国の同窓生の理解と協力により支えられております。しかしながら、近年の同窓会の財務状況は、会費納入額が伸び悩む一方、各支部活動の活性化や母校支援など更なる同窓会活動の推進のために、より多くの財源の確保が求められております。こうした課題の解決のために財政基盤検討委員会(委員長・足立原泰)において、慎重審議を重ねられ「財政基盤強化策」が取りまとめられました。

- 委員長 足立原 泰(高12)同窓会副会長
- 委員 曾根 秀敏(高14)同窓会会長
- 伊藤 修治(高17)同窓会副会長
- 大井恵理子(高18)同窓会副会長
- 杉田 泰繁(高14)厚木連合会長
- 高橋 力(高18)伊勢原戸陵会会長
- 八木 一郎(高14)愛川戸陵会会長
- 足立原 強(高16)厚木戸陵会会長
- 下川 信好(高14)睦合戸陵会会長
- 小淵 正志(高18)南毛利戸陵会

財政基盤強化策(抜粋)

1. 会費納入制度の見直し等

- (1) 終身会費納入年齢を現行の60歳から65歳へ引き上げる

【改正理由】年金支給年齢の引き上げ等、10年前の会費納入制度創設時からの社会情勢の変化に対応

- (2) 終身会費納入者を正確に把握し、納入後一定期間を経た者については、改めての寄付金の依頼をする
- (3) 10年会費(18,000円)制については、若年層対策の一環として維持し、期間満了者に対しては引き続きの納入を奨励する
- (4) コンビニ納付の導入を検討する

2. 会費納入の奨励・促進策について

- (1) 各支部における支部会員への会費納入奨励
- (2) 各支部総会、同期会等開催時における会費納入を奨励

→ 同窓会活動PR用パンフレット

- (3) 各種イベントにおける会費納入奨励

地引綱、懐い出の杜に親しむ会、チャリティゴルフ等

- (4) 若年層(25歳-50歳)への納入奨励促進

同窓会報等の送付範囲を若年層へ拡大し、会費納入を奨励

- (5) 会報への広告掲載により歳入確保の一助とする

3. 広報と納入奨励

- (1) 同窓会活動紹介パンフレットの作成

- ① 卒業時に同窓会の活動内容を紹介し、理解を深めてもらい加入を促進する。
- ② 総会、支部総会等への出席を契機に、同窓会活動を理解してもらい、活動参加と会費納入を呼びかける。

- (2) 会員への広報活動の充実と同窓会活動への参加呼びかけ

- ① 会費納入者には、総会案内、会費納入依頼文、会報、厚高新聞等の配布を原則とし、各支部を通じて行い、継続した協力を依頼する。なお、支部に属さない会員には、個別に郵送する。② 会費未納者には、各支部と協力して同窓会活動の紹介を予算の範囲内で広報し、納入を奨励する。○卒業回数を限定しての納付奨励○会報等の若年層への送付○20歳、30歳等の同期会開催時の本部からの役員出席と呼びかけ

4. その他

- (1) 各卒別幹事の活用

各同期会、クラス会開催の幹事との連携を強化し、情報の共有と会費納入及び寄付金の呼びかけを行う

- (2) 同窓会事業における同窓会本部の関わり方を検討する

- (3) 社会貢献という視点からの同窓会と地域社会の関わり方を検討する

- (4) 若年層に共感を得られる事業を研究する

会の財政基盤強化に向けて



新たに作成した「同窓会活動のご案内」の表紙

次に、昨年、財政基盤検討委員会(委員長・足立原泰・高13回)から報告を受けた「財政基盤強化策」に関する活動として2題を報告いたします。

まずは「同窓会活動のご案内」パンフレットの作成です。同窓会本部では「財政基盤強化策」の一つとして今年度「同窓会活動のご案内」を作成し、2018年3月

同窓会報に 広告掲載を開始

また、基盤強化策のもう一つの提案項目として、同窓会会報への広告掲載への取り組みがあります。この取り組みは、同じく財政基盤強化策の取り組みとして提言を受けたことから、広報委員会(委員長・小島信男・高17回)において、慎重な議論を重ねられました。



広告掲載について検討を進める広報委員会

一方、同窓会会報では、紙面のサイズに制約があり名刺サイズの広告を基本とするなど、広報委員会が活発な議論を展開し、記念すべき会報52号の発行となりました。事務局・石塚修(高28回)

平成29年度通常総会開催 本部役員選出、財政基盤委報告など

平成29年6月24日、レンブラントホテル2F「暁紅の間」において平成29年度通常総会が開催されました。

総会開会に先立ち、物故者への黙祷が捧げられた後、足立原泰副会長(高13回)の閉会の辞で、平成29年度通常総会は終了しました。東

その後、議長団として三平明彦氏(高14回)が選任されて議事審議に入り、各種議案審議が満場一致で原案通り可決されました。

この内、本部新役員については、役員選考委員会からの報告・提案による新役員人事が満場一致で原案通り可決・承認されました。

なお、議事の最後には同窓会財政基盤強化策について、財政基盤検討委員会(足立原泰委員長)から報告がありました。

議事終了後、落合重治副会長



平成29年度通常総会(平成29年6月24日)

(高13回)の閉会の辞で、平成29年度通常総会は終了しました。東



講演は東京女子医科大学教授の矢口有乃氏(高36回)

京女子医科大学教授の矢口有乃氏(高36回)が登壇し、「救急・集中治療における生命倫理」と題した講演を行いました。

講演終了後、会場を同ホテル3F「相模(西)の間」に移し、杉田泰繁厚木連合戸陵会会長(高14回)の乾杯の音頭が始まった懇親会では、和気藹々の雰囲気の中、親睦を深めました。

最後は難波角三応援団OB会長(高16回)の指揮による校歌斉唱が行われ、大井理恵子副会長(高18回)の挨拶で散会となりました。

広報委・小島聡(高33回)

第3回チャリティ ゴルフコンペ開催

厚木高校同窓会主催、第3回チャリティゴルフコンペが、平成29年11月13日(月)に、本厚木カントリークラブで開催されました。

当日は、38組150名の参加で盛大に行われました。

終了後、表彰式・懇親会が行われ、クラブハウス内が大勢の参加者の歓声で盛り上がりました。優勝は、高校25期の新井隆司さんでした。なお、大会参加者から母校支援基金に、25万円のチャリティ



厚木連合戸陵会の杉田会長(左)から優勝者の新井さんにトロフィーが授与

30年度事業計画より

『第13回青春かながわ校歌祭』
厚木高校の今年の演目は、応援歌「健児は起てり」(栄えあれ厚木)と「校歌」。応援団のOBリードで吹奏楽部OBの演奏、ダンスドリル部(OG)によるコラボ演出で今回も他校を圧倒すること必至。

10月21日(日)11時30分開演予定
会場/県立青少年センター
なお、9月9日(日)団結式・練習会を厚高中庭で実施予定。

『第4回同窓会チャリティゴルフコンペ』
11月12日(月)本厚木カントリークラブ(厚木連合戸陵会主催)
『第10回思い出の杜に親しむ会』
11月17日(土)同窓林、愛川織維会館「レインボープラザ」(愛川戸陵会主催)

第9回「思い出の杜」に62名が参加

快晴に恵まれた平成29年11月25日、「第9回思い出の杜に親しむ会」が62名の参加で開催されました。



思い出の杜は紅葉まっさかり

当日は愛川織維会館に集合し自動車では先輩が子供の頃のこの沢で沢蟹を獲って遊んだことや、通学中に砂利道で自転車のハンドルをとられて牛車に衝突したことなど、昔話をされながら思い出の杜に到着しました。思い出の杜を見学する人は各戸陵会で集約し現地集合していただきました。すべての戸陵会が参集したところで記念写真。2年前開催時に相模原戸陵会の記念樹としてハナモモを16本植えました。残念ながら全滅してしまいました。

思い出の杜を見学後、懇親会会場の織維会館へ向かいましたが宮ヶ瀬ダムを見物してから懇親会に向かう戸陵会もありました。懇親会には校歌斉唱が始まり、八木愛川戸陵会会長の歓迎の挨拶、曾根同窓会会長の挨拶をいただき、落合同窓会副会長の乾杯のご発声で酒宴に入りました。先輩・後輩・同輩と旧交を温めることができ、八木会長の音頭で「厚高音頭」を全員で手拍子し歌い盛会のうちに閉会となりました。

30年度本部・支部会 総会等のお知らせ

- 津久井戸陵会/4月15日(日)
- 南毛利戸陵会/4月22日(日)
- 第17回地引網大会
日時/5月4日(金)午前11時
会場/旧小田急沼泊プールガールズ裏「堀川網」
- 伊勢原戸陵会/5月12日(土)
- 相模原戸陵会/5月19日(土)
- 玉川・森の里戸陵会/5月19日(土)
- 綾瀬戸陵会/5月20日(日)
- 平塚戸陵会/5月27日(日)
- 厚木戸陵会/6月3日(日)午後5時
- レンブラントホテル厚木
- 関西戸陵会/6月10日(日)
- 愛川戸陵会/6月16日(土)
- 座間戸陵会/6月17日(日)
- 同窓会通常総会
日時/6月23日(土)午後1時
会場/レンブラントホテル厚木
- 厚木連合戸陵会通常総会/7月22日(日)
- 秦野戸陵会/11月10日(土)
- 藤沢戸陵会/31年3月3日(日)

イトウスポーツ
代表取締役 伊藤 修治(高17回)
TEL.046(224)9397・(223)3458
FAX.046(221)0540 旧イトーヨーカドー西隣

土地・建物・賃貸・売買・分譲
不動産のことなら何でもご相談ください
株式会社 杉田商事
代表取締役会長 杉田 泰繁(高14回)
神奈川厚木市旭町2-1-17
TEL.046-228-4581
E-mail info@sugitasyoji.co.jp
URL http://www.sugitasyoji.co.jp

あつぎ飯山温泉
元湯旅館
代表取締役 石川 範義(高10回)
神奈川厚木市飯山4916
TEL.046-242-0008(代)
FAX.046-241-8975
●東京案内TEL.03-3207-0008
●URL http://www.motoyu.co.jp

学校情報

加藤一彦教頭と須藤福治先生(高28回)が3月31日付で定年退職されました。須藤先生には永年同窓会の校内事務局長として、多大なご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。4月1日付の人事異動では、神戸永江副校長が多摩高校に、校内役員としてご協力いただいた三橋功先生(高38回)と松田浩幸先生(高54回)が厚木東高校、綾瀬西高校にそれぞれ転任されました。

また、樋口一孝副校長(総合教育センター)と本校出身(高34回)の大塚秀光教頭(上溝高校)が新たに着任されました。さらに、本校出身の魚谷志磨子先生(高36回、大和高校)と高瀬幸一先生(高28回、麻溝台高校)がそれぞれ着任されました。魚谷先生と高瀬先生には今後同窓会の校内役員としてもご協力いただくことになり、よろしく御願ひ申し上げます。

2度目の着任あいさつ



副校長 樋口 一孝

卒業生の皆様には、在校生の豊

このたび副校長として着任いたしました。厚木高校は2度目の勤務となります。1度目は理科の教員、進路指導の担当として勤務いたしました。その当時も、同窓会の皆様の厚木高校への強い思いを感じておりました。いつも校外から注目され、見守られているような、安心感とともに緊張感のある毎日でした。このたび、再度の厚木高校勤務を命ぜられ、そのときの気持ちを新たにしているところです。

在校生は、勤勉で何事にも一生懸命に取り組んでいます。生徒の良いところを伸ばし、視野を広げ、深い学びを通して大きな成長ができる学校づくりに貢献していきたいと、気持ちを引き締めしております。

母校厚高への着任にあたって



教頭 大塚 秀光(高34回)

かな学びを支えるサポーターとして、今後も御支援を賜りますようよろしく御願ひいたします。最後にありますが皆様の益々の御活躍を祈念いたします。

この4月より、母校である厚木高校に教頭として着任しました。厚木高校は平成30年3月30日に神奈川県教育委員会より学力向上進学重点校として指定されました。これはご存知の通り、将来の日本や国際社会でリーダーとして活躍できる高い資質・能力を持った人材を育成する学校として、選ばれたという事です。

もちろん厚木高校ではいわゆる勉強だけでなく、部活動や学校行事をはじめとして、探究活動型の

科目「ヴェリタス」や海外姉妹校との交流など、いろいろな場を生徒に提示し、人間性を強く深く養ってまいりました。結果として、学力も伸び、進学実績も伸長していることが、重点校としての指定に結びついたものと考えられます。それは、同窓の同僚や友人と話をする際に如実に感じられることでもあります。つまり、みんなにとって厚木高校での生活は楽しかったのです。思い出話はにぎやかに弾み、現在の私たちの背中を強く押してくるのです。同窓会の活動がこのように盛んになるのも、むべなるかな、です。

教員という立場で母校に戻ってこられたことを誇らしく思いつつ目の前の逞しくも可愛らしい生徒たちを、大きく柔らかに伸ばしていきたいと強く願っております。

厚高は教員生活の原点



魚谷 志磨子(高36回)

同窓会の皆さまの更なるご支援を一心より御願ひ申し上げます。

この度、大和高校より着任いたしました。久しぶりに桜舞う戸室の坂を登り、懐かしい母校の正門をくぐり、校舎内を歩いていると、厚木高校で共に過ごした友やお世話になった先生方の顔が次々に浮かびました。勉強に部活動にと忙しい中で、皆で戸陵祭、体育祭などの行事にも熱心に取り組み、充実した高校生活を過ごした日々が30数年の時

を経て、思い出されました。この場所です。厚高新聞を作り、共に高校時代を過ごした仲間が生涯の友人です。この度の着任に際し、恩師友人から励ましの言葉を頂き、喜びと共に母校で教育活動に携わる責任の重さを感じています。

また、教育実習の時に私の拙い授業に温かい励ましの言葉をくれた厚高生との出会いは私の教員生活の原点です。教員生活も終わりが近づいてきた時期に母校に帰って来る事ができ、大変感謝しております。

人生の基礎となる大切な時を同じ厚木高校で過ごす後輩たちのために微力ではありますが、尽力してまいります。どうぞよろしく御願ひいたします。

身を引き締め次世代へ



高瀬 幸一(高28回)

本年度より相模原の麻溝台高校より、母校の厚木高校に着任いたしました。

人は、発展段階で学び、あえぎ喜び。そして年を重ねていく。学ばなければ、正しい情報がなければ、知らぬまま、誰にでも言えることである。

熟年に達した今、次世代を担う若者の育成に関われることに、改めて身の引き締まる思いと責任を感じております。比較平等で民主的平和的な地球・国家づくりを意識にとどまらず、関わりを進展できる能力と機会を若者に教え残し、引き継いでいくことを使命とする世代であることを、教育者であるとともに一市民として自覚します。

非力ではありますが、時代を担う生徒の育成に尽力してまいりますので、何卒、よろしく御願ひいたします。

経産省選定

地域未来牽引企業



代表取締役 加川広志 (高25卒 津久井戸校会)

山一グループ

代表 小島 條太郎(高21回)

(株)山一燃糸

神奈川県愛甲郡愛川町半原5695

山一グループ

代表 小島 條太郎(高21回)

(株)パイオニアハウジング

神奈川県厚木市寿町2-1-8 501号

厚高の近況報告

学力向上進学重点校に指定



校長 中垣 匡

平成30年度は厚木高校にとって変化の年となります。勿論、学校の目指すところや校風が変わるわけではありませんが、いくつかの事業が変わります。

まず、第一に神奈川県での学力向上

進学重点校に指定され、横浜翠嵐、湘南柏陽とともに4校が神奈川県を代表する進学校であるということが示されました。ここ数年は翠嵐、湘南柏陽の3校が上位校として扱われ、厚木はその次のグループのように捉えられていました。それが今回の指定で、厚木が加わったことは、生徒の進学実績やそれを指導した教員の力によるところが大きいと考えています。今後、指定4校としての意識を持ち、よりよい教育活動の充実に努めて参ります。

一方、平成25年度から5年間指

母校で学び定年を迎える

前校内務局代表

須藤 福治(高28回)

母校に赴任してからこのたび12年の時を数え、定年退職を迎えることになりました。37年前に2年間非常勤講師を務めて以来、25年振りの着任は懐かしい思いがいっぱいでした。教室や体育館など施設はかなり古くなり、中庭やグラウンド周りの木々が大きくなっていましたが、仰ぎ見る大山の景色は全く変わっておらず、毎日見ていた学生時代を思い出しました。

同窓会においては4年間、校内代表を務めましたが、至らぬ代表で何もお役に立てず申し訳なく思っております。授業に追われながらの校内業務は大変な

時もありましたが、校内メンバーの協力と本部役員の方々に助けられて何とか務めてまいりました。ありがとうございます。最後の1年は生徒、講師、この12年のそれぞれの思い出がよく蘇りました。授業で教室に入る瞬間や石敷きの廊下に目を落とした瞬間に、ふと昔を思ったりしました。学生時代を過ごしたこの母校で初めて教壇に立ちまた母校の教壇で退職を迎えられて本当に幸せでした。

これからは一会員として母校後輩の活躍と厚木高校の益々の発展を応援していきたいと思っています。

過去5年間の主要大学合格者数

【現役・既卒の合計数()は既卒者】平成30年4月3日現在

Table with columns for school names and years from 2015 to 2018. Rows include national, public, and private schools.

最近5年間の進学状況

Table showing enrollment trends for various university types from 2014 to 2018.

学業・部活・人物などすべてにおいて優れている卒業生一名に贈



水泳部部長の 須永大介さん

「やりたいことをやった 充実の3年間」

なかつた達成感と安堵に満たされ

定という。

定を受けていたスパーサイエンス校については、更新がされず指定5年目の生徒が卒業するまで2年間の経過措置となります。これまで取り組んできた成果を学力向上進学重点事業につなげて参ります。

保護者等から寄せられていたトイレの改修が本年度2棟で、来年度は耐震補強と合わせて1棟で行われます。工事期間が文化祭と重なりますが、できる限り支障のないよう進めて参ります。

特に好きな科目は物理で、身の回りのすべてが物理で説明できることが魅力だという。「物理の公式はシンプルだけど、それを導き出す過程はすごく面白い。数式の表す事象を言葉で描き出すときの数と言葉のやりとりが楽しい」と話す。大学では機械工学を学び、形あるものを自分の手で作っている世に生み出したいと考えている。

中3のとき、厚高の学校説明会で軽音楽部が小松先生と演奏するのを見て、勉強一辺倒ではない厚高の一面に魅せられた。「時には先生と一緒に、楽しむことは楽しむ」という心意気を感じて入学を決めたそうだ。「厚高に入ってから当によかったです」と、いつもの笑顔がこぼれた。

「厚高新聞」第258号(30年3月1日)より

なお、卒業後の進路は早稲田大学製造理工学部総合機械工学科の予定という。

株式会社 松本企画

代表取締役 松本 茂(高20回)

〒259-1114 神奈川県伊勢原市高森2-17-6 TEL 0463-95-8668 FAX 0463-95-8670

もりひろ 行政書士事務所

FAX 0463-73-6591

たかはし歯科

高橋 力(高18回) (通称 ミスターム)

神奈川県伊勢原市桜台2-22-1 不二ビル2F TEL 0463-94-8888 FAX 0463-94-8840

厚高校舎1棟に耐震工事 31年度にプレハブ建設

平成31年度に1棟校舎の耐震工事が予定されていることがわかった。

中垣校長によると「県財政との兼ね合いもあるため、実施についてはまだ不安定な要素はある」とのことだが、県にはできるだけ早い着工を依頼しているという。

工事の内容は、窓部分へのクロス設置、スリットによる柱の補強などである。工事終了後の内装は、現在の2棟とほぼ同じになるという。中垣校長は「耐震工事に合わせて老朽化した水道管の補修も行いたい」と話した。工期はおよそ8ヶ月の予定で、その間1棟は使えなくなるため、プレハブ校舎での生活となる。

現在、1棟には職員室、事務室、保健室や3年生の教室がある。3年生がプレハブ校舎に移動するか、



大規模耐震工事が計画されている厚高校舎1棟

1年生がプレハブ校舎を使用するかはまだ決まっていないという。また、職員室や事務室については、2棟に移動できるような部屋がないため、プレハブ校舎に移る可能性が高いそうだ。プレハブ校舎は校庭に建設することになり、なるべく2棟校舎に近い位置に建てる予定とのことだが、具体的な位置は未定である。プレハブ校舎と2棟校舎をつなぐ通路の設置についても決まっていない。通路が設置されなかった場合、雨の日は職員室まで行くのに傘をさす必要があると述べている。

プレハブ校舎建設による影響について中垣校長は「体育祭は例年と場所を少しずらすなどの影響が出ると思うが、開催できなくなることはない」と話した。文化祭については「擬似などで教室内を裝飾することは例年通りできると思

う。実際に他校ではプレハブ校舎でも文化祭を行っていた」とのことだった。ただ、プレハブ校舎では音が伝わりやすく、文化祭で隣の教室の音が聞こえてしまうことは考えられる。

最後に築50年ほど経っている厚高校舎の建て替えについて中垣校長に考えを聞いたが「耐震工事をやっすぐに全面建て替えになるとは思えない。全規模の順位で考えると厚高の建て替えはまだまだ先になるだろう」と見解を話した。実際に、県内でも築40年ほど建て替えられた学校もあるが、そのような学校は建築状況があまりよくなかったために建て替えられたという。校舎の建て替えには莫大な費用が掛かるため、県の財政も大きく影響するというのが「もう少し県の方でも見直しを立ててくれると助かる」と中垣校長は意見を述べた。

【軽音楽部】
3年生バンドの「GROOVE RUP TION」が8月19日、パルテノン多摩で行われた全国高校軽音楽コンテストで準グランプリを受賞。
8月6日に相模原市民会館大ホールで開催された県軽音楽コンテストに3年生バンドの「ASKY」が準グランプリを獲得。同じく3年生バンド「End up Viny」が奨励賞を受賞。同バンドは8月23日の

29年度部活動ダイジェスト
『厚高新聞』第257号
平成29年10月26日付より

**厚高軽音の
目覚ましい活躍**

OTODAMA 甲子園でも3位を獲得した。
2年生バンドの「てふ×てふ」が11月5日に滋賀県豊郷市で行われた第7回とよさと軽音楽甲子園で文部科学大臣賞を受賞、見事グランプリに輝いた。
11月26日の県軽音楽コンクール(海老名市文化会館)で2年生バンドの「パンと同じ」が奨励賞を、12月8日の「若者たちの音楽祭」(愛川町)で同じく2年生バンドの「Be Lilium」が優勝に当たるワカト大賞を手にした。
8月19日、20日に墨田区総合体育館で行われた「USA School & College Competition 2017」で Jazz部門と song/pom dance 部門で準優勝。また、11月18日に渋谷区東京体育館で行われた「ALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPION SHIP 2017」では cheer dance 部門で2位を獲得。
11月19日に県立青少年センターで行われた「第56回県高校演劇部

夏の高校野球神奈川大会には、同窓会からも大挙して応援にかけつける



夏の高校野球神奈川大会には、同窓会からも大挙して応援にかけつける

【演劇部】
11月19日に県立青少年センターで行われた「第56回県高校演劇部

【野球部】
県高校野球秋季大会北相地区の予選リーグを2勝1敗の2位で通過した野球部は、9月3日に綾瀬市広陵公園で開催された県大会1回戦で市立横浜商業に1対9で敗退。また、11月11日から19日に行われた厚木市大会では優勝。

【卓球部】
男子は、11月18日に秦野総合体育館で行われた県高校卓球新人大会で団体戦ベスト16に。また女子も、同日横須賀アリーナで行われた同大会でベスト16に入った。

【物理科学部】
7月17日に行われた全国高校アマチュア無線コンテストで、物理科学部無線班の井本祥悟さん(2E)が第3位に輝いた。

【厚高新聞】第257号(29年10月26日付)及び第258号(30年3月1日付)より

HIRAOKA Kinder Garten
ひらおかようちえん

〒259-1212 神奈川県平塚市岡崎3024
学校法人平岡学園 理事長 堀田 利久(高17回)

＝おかげさまで97年＝
三橋建設産業(株)
代表取締役 三橋 要(高21回)
一級建築士 一級建設施工管理技士
一級土木施工管理技士
本社/神奈川県伊勢原市田中975
事業部/神奈川県伊勢原市板戸806
TEL 0463-95-1133
FAX 0463-94-2727

～ お酒のご注文は～
(高29回)
沼酒店
ONUMA LIQUOR STORE
TEL 0463-94-3438
FAX 0463-92-3902
〒259-1132 神奈川県伊勢原市桜台1-12-14

平成29年度 部活動大会実績(県大会ベスト16位以上)

部活動名	受賞日	具体的名称	成績	大会レベル
SS 研部	3月28日	第34回化学クラブ研究発表会	奨励賞 GSC ジュニア賞	関東大会
軽音楽部	4月2日	Cute Girls Live Road to NAON の YAON 2017	出場	全国大会
卓球部	4月29日	関東高等学校卓球大会神奈川県予選会 男子団体	ベスト8	県大会
男子硬式テニス部	5月20日	神奈川県高等学校テニス大会	ベスト16	県大会
剣道部	5月27日	第64回全国総体神奈川県予選女子個人	ベスト16	県大会
軽音楽部	6月11日	ガールズバンドステージコンテスト	優勝	関東大会
剣道部	6月24日	第65回全国総体神奈川県予選女子団体	ベスト16	県大会
陸上競技部	7月2日	第72回神奈川県陸上競技選手権大会 200m	7位	県大会
競技かるた部	8月3日	第41回全国総合文化祭みやぎ総文 2017 小倉百人一首かるた部門	奨励賞	全国大会
軽音楽部	8月6日	第17回高等学校軽音楽コンテスト神奈川県大会	優勝	県大会
軽音楽部	8月6日	第17回高等学校軽音楽コンテスト神奈川県大会	準優勝	県大会
軽音楽部	8月6日	第17回高等学校軽音楽コンテスト神奈川県大会	奨励賞(4位)	県大会
軽音楽部	8月6日	第17回高等学校軽音楽コンテスト神奈川県大会	連盟会長賞	県大会
軽音楽部	8月9日	全国高校生アマチュアバンド選手権 TEENS ROCK IN HITACHINAKA	準優勝	全国大会
軽音楽部	8月19日	第5回全国高等学校軽音楽コンテスト	準優勝	全国大会
軽音楽部	8月19日	第5回全国高等学校軽音楽コンテスト	優秀賞	全国大会
ダンスドリル部	8月19日	USA School & College Competition 2017	JAZZ 部門 2位	全国大会
弓道部	8月20日	第12回全国高校選抜連年の弓道大会		全国大会
ダンスドリル部	8月20日	USA School & College Competition 2017	Pom Dance-Advance 部門 2位	全国大会
軽音楽部	8月23日	OTODAMA 甲子園 2017	3位	県大会
物理化学部	9月2日	第28回全国高等学校アマチュア無線コンテスト	3位	全国大会
弓道部	9月17日	第36回関東個人選手権選抜大会	4位	関東大会
陸上競技部	9月17日	県高校新人陸上競技大会 3000mSC	10位	県大会
陸上競技部	9月23日	県高校新人陸上競技大会 500mW	12位	県大会
AIC(厚木国際交流クラブ)部	11月3日	平成29年度PDA神奈川県高等学校即興型英語ディベート大会	優勝	県大会
軽音楽部	11月4日	第7回とよさと軽音楽甲子園(全国大会)	文部科学大臣賞	全国大会
山岳部	11月10日	第61回関東高等学校登山大会	出場	関東大会
ダンスドリル部	11月18日	ALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPIONSHIP 2017	Cheer Dance部門高校生編成 2位	全国大会
卓球部	11月18日	神奈川県高等学校卓球新人大会 男子団体戦	ベスト16	県大会
卓球部	11月18日	神奈川県高等学校卓球新人大会 女子団体戦	ベスト16	県大会
英作文部	11月20日	第56回全国高等学校生徒英作文コンテスト	入選	全国
新聞部	11月24日	第67回神奈川県中学校・高等学校新聞コンクール	優良賞	県ベスト4
軽音楽部	11月26日	第15回 高等学校軽音楽コンクール	奨励賞(3位)	県大会
軽音楽部	11月26日	第15回 高等学校軽音楽コンクール	専門部会長賞	県大会
演劇部	1月27日	第53回関東高等学校演劇研究大会 甲府会場	優秀賞	関東大会
AIC(厚木国際交流クラブ)部	1月28日	2018日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯 神奈川県大会 (OPEN部門)	優勝	県大会
AIC(厚木国際交流クラブ)部	1月28日	2018日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯 神奈川県大会 (EFL(帰国子女以外)部門)	第2位	県大会
AIC(厚木国際交流クラブ)部	3月24日	2018日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯 全国大会	出場	全国大会



教科書

(有)内田屋書房

☎046-258-6722

代表取締役 内田 喜康(高13回)

- 厚木市泉町4-1 第五内田ビル3F
- 東京農大厚木キャンパス店

つるくぼ
耳鼻咽喉科

日本医科大学講師・つるくぼ耳鼻咽喉科院長

医学博士 鶴窪 一行(高26回)

〒243-0018 神奈川県厚木市中町3-3-22
TEL.046-221-4187 FAX.046-225-4133

“本物志向の金物店”

建築金物・家族金物・工具・刃物

(有)足立原商店

代表 足立原 強(高16回)

神奈川県厚木市水引1丁目1番2号

TEL 046-221-1059

FAX 046-221-1259

支部会便り

伊勢原戸陵会



農協組織の中で
50年目の縁

山田 信昭(高13回)

私は農家に生まれ子供のころから百姓の手伝い、家畜の世話をして育ちました。昭和27年、28年頃は当時、朝鮮牛と言われた赤牛が農業にとって重要な動力源であり、私は朝夕のエサくれや牛舎の清掃などの世話をしていました。その牛が年を取り力が無くなってきたことで博労に引き取られていくとき、牛舎からなかなか出て来ず、子供の私が引き出すと素直に出てきたことを覚えています。トラックに乗せられたとき、その大きな目に涙が溜まっていたのを見て、胸が締め付けられた思いが今でも

忘れられません。

中学校卒業までは三チャン農業の手助けをしていましたが、高校進学してからはそうはいきませんでした。専業農家でもありませんでしたし、農業の厳しさすらも感じていたので、高校時代はサラリーマンに漠然とした憧れを持っていましたように思います(当時の愛読書は源氏鶏太の「三等重役」などのサラリーマンもの)。将来設計も出来ていませんでした。

厚木高校13回卒同窓会



厚木高校第13期卒同窓会
於：レンブラントホテル厚木(平成29年5月14日)

大学卒業後、幼いころから生活の一端であった農業の将来に関心があり、農業関係の団体に就職しました。私が就職した昭和40年(1965年)は東京オリンピックの翌年ですが、米中心の食生活から畜産物への移り変わりの時代でありました。神奈川県内の農業事情も畜産業が隆盛を極め、ピーク時は採卵鶏が500万羽、乳用牛4万頭、豚20万頭以上が飼育されていました(最近の数字ではそれぞれ110万羽、6千頭、7万頭)。しかしながら昭和43年以降、農畜産物の輸入自由化圧力が強まり、平成に入ると牛肉、オレンド、乳製品等の自由化が進みました。また、平成7年には新食糧法の施行に伴い、食糧法が廃止されました。県内の米生産量は昭和40年に4万4千トン余あったものが現在では1万5千トンと約3分の1で

あります。

農業界にあつては有害鳥獣対策や高齢化等による担い手不足、農協改革やPPP問題など課題山積みの昨今であります。国内食料自給率が38%に落ち込み、食糧安全保障や農業が持つている景観の維持、自然災害の拡大防止などの多面的機能を考えるとき、今こそ農業振興が重要に思います。

こうして、半世紀にわたる過去を振り返ってみると、「農業が曲がり角」と言われて久しい中で、本当に曲がりかねた道なのであつ

綾瀬戸陵会

先輩方の思いに感謝

武藤 龍太郎(高60回)

綾瀬戸陵会は平成29年度の総会を、5月21日(土)17時より大和駅前「北京飯店」にて開催致しました。今年には中垣匡校長、曾根秀敏会長(高14回)、伊藤修治副会長(高17回)、志村祐一事務局次長(高24回)、大井理恵子さくら戸陵会会長(高18回)、大矢正次

たと思います。昭和40年に神奈川県経済連に就職以来、全農神奈川県本部、伊勢原市農協とちょうど丸50年勤めました。その間、平成14年に神奈川県経済連50年史、平成27年に伊勢原市農協合併50年史を発行する立場にめぐり合わせたことは、偶然ながら50年に縁があつたと思っています。



5月21日開催の綾瀬戸陵会平成29年度総会



懇親会ではオペラ歌手の森口賢二氏(高44回)と山口友里さん(高39回)が素晴らしい歌声を披露

さん座間戸陵会(高14回)、久崎教生さん玉川・森の里戸陵会(高14回)、甘利明衆議院議員(高20回)等、多くのご来賓の方々にもお越しいただきました。また、今年も懇親会ではオペラ歌手パトリックの森口賢二さん(高44回)、メゾソプラノの田口友里さん(高59回)による素晴らしい歌声を披露していただき、大変賑やかな会となりました。

高校時代を振り返ると、部活動の陸上部では、先輩が練習の指導や怪我のケアなど幅広く支援してくださったことで、悔いなく試合で走ることができました。また、県の高校駅伝では、朝早くに先輩方が「厚木高校」と書かれた幟旗を片手に、色々な場所まで応援をいただきました。

株式会社アドペック
代表取締役 池田 清(高19回)
〒243-0013 神奈川県厚木市泉町6-7
☎046-228-2210 ☎046-228-1680
☎090-8855-2196 ✉info@adpec.jp

工事用保安用品・看板各種製造販売
消防設備保守点検業務・防災用品販売
新日商事株式会社
取締役会長 石塚 武(高14回)
〒243-0004 厚木市水引1-10-14
☎046-224-6322

麺の食堂
厚木で生まれ半世紀、
シンプルでありながら素材にこだわり、
変わらぬ味と通ったスープと、
コシのある自家製麺が自慢の中華そば
(株) SANTA CALA 望月 治男(高16回)

津久井戸陵会



人生の80分の3

奈良 雅之(高8回)

私は昨年80歳の傘寿を迎えた。80年のうちの3年間を厚木高校に学んだ。その間の体験と教えを受けた先生方との出会いは、その後的人生に何らかの形で大きく影響しているように思う。

津久井から高校までの道のりは片道ほぼ20キロぐらいであろうか。当時舗装もされていなかった砂利道を一時を除いてその大部分を自転車で通学した。

現在、厚木までの道路は見違えるようにすばらしくなったが、たまに用事で旧道を通った折には、沿道の風物が部分的に残っており懐かしさも思い、この距離をよく通ったものだとながら感心する。当時は出会う車もさほど多くはなかったが、トラックとすれ違う時に巻き上げられた砂塵でしばし動けない時もあった。

途中には真名倉坂と平山坂という長い坂道があり、夏の夕立に遭ったときなどには黒いゴム引きの雨合羽を着るのだが、雨に濡れるのと汗にまみれるのとで、結果的には雨合羽は無用の長物となった。厳寒期には、自転車のブレーキをにぎる両手の感覚がマヒするようなことが度々であった。

そんなある冬の日、午後の社会科の授業中のこと、教室のうしろのドアが開き、戸倉宏校長先生が入ってこられるなり、「津久井から来ている奈良おるか」と言われた。突然のこと何事かとびび

くりしていると「雪が降ってきたようだ。津久井の方はどうなのか心配だ。この授業が終わったら下校してもいいぞ」

そのときは雪模様になっていない。校長の裁可である。言われるままに下校したが、津久井に入ったら雪はすっかりあがっていったというところもあった。

大和戸陵会

同窓の諸先輩に学ぶ 総会後の講演会

大和戸陵会は、平成11年高校3回卒業生が中心になり発足しました。今年、ちょうど20回目の記念総会となります。年に1回の総会と懇親会ですが、最近参加者も増加傾向にありほっとしているところですよ。

毎回総会終了後大和出身の卒業生に講演をしていただいています。近年では現大和市弓道協会会長・高橋和貴氏(高31回)の「弓の道」(母校時代から始めた弓道への思いなど)、横浜薬科大学教授・村田実希郎氏(高43回)の「易しい薬の話」(私たちが普段飲んで

いる薬の扱い方など)、前大和市長・土屋候保氏(高16回)の「大和の歴史と地名——下鶴間を中心に」(市内の地名の歴史の経緯や、渡



総会後の記念講演では、毎回各分野で活躍中の大和出身の卒業生に貴重なお話をうかがう

石川 創一(高18回)

辺華山の「游日日記」に登場する下鶴間の紹介など)およそ40分程度

また、通学の途次、1・2年生の時に担任であった大矢純夫先生のご自宅の前を通るのだが、ある時、お宅の前で掃除をされていた先生のお母さんに呼び止められてお茶をご馳走になったことがあった。数10年後、偶然にもわが家にあつた明治時代後期に刊行されたほんの25ページほどの1冊の詩集が、私と大矢先生とを結ぶ縁になるうとは予想すらできなかった。

通学に関わるほんの1コマに過ぎないが、往復約40キロ、3年間様々な出会いと思いを生みながらほぼ1千回往復したことになる。それらはその後の私の生活の礎となつて私の「今」がある。

平塚戸陵会

旧制厚木中学、新制厚木高校に通学した6年間の思い出

杉山 静男(高2回)

私が県立厚木高校に入学したのは、旧制の県立厚木中学校の頃でした。先ず、中学校1年生に進学し、中学4年生の時に、学区制の改変があり、県立厚木高等学校となり、高校3ヶ年を履修することになった訳です。ですから、旧制と新制の切り変えに伴い、厚木高校には、計6ヶ年間お世話になりました。

通学の様子は、旧制ですから、学帽に中学の校章を着け、学生服で通学した訳です。ところが、中学校4年生の時、学区制の変更に、神奈川県立厚木高等学校と名称が変わり、3カ年の履修となった訳です。それ故、前述のように、計6カ年の通学となりました。

その間、家庭の事情があり、祖父が亡くなり、父の実家に移ることに。現在の住居に移住することになった訳です。そして現在に至って居ります。

先日も、「憶い出の杜」の参集があり、平塚地区の同窓生と、楽しんで

に過ごした学校や友人を懐かしむ心は多くの人が持っているのではないのでしょうか。1年に1回ですが年の差を忘れて同窓会という共通の部分で歓談できることは楽しいことだと思います。大和戸陵会はこちらから少しでも多くの方々に声かけをして行きたいと思っています。

く参加できました。これも偏に、厚木高校同窓生の交流の賜物と感謝致して居ります。厚木高校在学中は、合唱部に所属し、テノールのパートを思う存分發揮して、ハーモニイを楽しんだことが、大変なつかしく思い出されます。

更に、大学時代には、専門は国文学専攻で、国語の教師を目指して、勉学に励みましたが、個人的には、横浜国立大学の音楽の教授をして居られた、声楽家(テノール)奥田良三先生のお宅に御邪魔して、テノールのレッスンを受けて、音楽の免許状も取得いたしました。

それ故、中学校、高等学校の教師としては、国文学の授業と音楽の授業を受け持ち、合唱(混声合唱)にも、力を注いだ思い出は、今でも大変なつかしく、思い出されます。

これからも、同窓生の皆様とは交流の場をあげ、未永く、お付き合い頂きたく願って居りますのでよろしくお願致します。

創業明治十三年 大矢製畳株式会社 代表取締役 大矢 正次(高14回) 〒252-0027 座間市座間1-4188 (座間小学校西側) TEL:046-251-0032 FAX:046-251-6848

神奈川県電気工事業者組合 理事 厚木地区電気工事協同組合理事長 厚木地区本部 本部長/理事長 真崎 和秋(高22回) 〒243-0017 厚木市栄町2-3-20 TEL:046-295-4200 FAX:046-223-0376

総合電気設備工事 真崎電気株式会社 代表取締役 真崎 和秋(高22回) 〒252-0027 座間市座間1-3275 TEL:046-251-2054 FAX:046-255-5488 E-mail: mdk@mbe.nifty.com

(有) 神山クリーニング店 取締役会長 神山 宏(高17回) 〒252-0027 座間市座間1-3185-2 TEL:046-251-0201 FAX:046-255-2525 携帯:090-2451-9778 E-mail: kamiyama@tanza.or.jp

有限会社 ヒルカワフリーディングファーム 代表取締役 比留川 直幸(高15回) 〒252-1123 神奈川県瀬溝市早川496-1 自宅 TEL 0467-78-0646 事務所 TEL 0467-77-3728 FAX 0467-77-3810

海老名戸陵会

一幅の掛け軸

初代大屋八十八郎校長先生と父

赤井 成一(高4回)



初代大屋八十八郎校長

話の始まりは、昭和21年(1946)の12月のある日の小田急線経堂駅に降り立った一人の少年からです。

その少年は、小柄な身体には似合わない大きな背囊を背に、左手に風呂敷包み、右手には行き先を書いた紙片を持ち、慣れない土地にやや緊張した様子でした。

少年とはその年の4月に厚木中学の生徒となった私です。父親の言いつけで、経堂にお住まいの初代校長大屋八十八郎先生(明治35年3月~大正14年7月在任)のお宅に米や野菜を届けるのが私の使命でした。

終戦から1年が経った頃のこと、で、猛烈な食糧難の時代。巷では、買い出し列車や闇市が賑わい、まさに戦後の混乱期でした。幸い我が町(海老名)では、食糧難とは言え米だけは確保出来ていたようです。

我が家では、「迷子になるのでは？」などと家庭内の議論も多々あったが最後は、「先生がお困りのようだ」と、「もう中学生なのだから」で決まったようです。

大屋先生のお宅はすくりに判り、玄関で声をかけると、暫くして和服を着た老人そのものという感じの先生が姿を見せた。

「厚木中1年の赤井です。今日は父の言いつけで、海老名の米などを持ってきて来ました」と言うのが一杯でした。

「厚木中学校へ入ったそうだな。学校はどうだ。父親の病気はどうだ」などのやりとりもそこそこに、役目を果たした安堵感に包まれた私は帰る意志を伝えました。

「おまえは大屋先生に何か頼んだそうだな。今日、先生から書状を頂いたのだが、同封してある物は息子との約束で、お正月の書き初めとして書いたものだ。息子に渡してくれ」とのことだった。中には



大屋先生の人物像については数多くの方が、記念誌などで紹介されています。創立80周年の記念新聞記事の中で、茅誠司氏は、「無類のやかましやであったが、その裏では優しく細心の注意を生徒の一人ひとりに払われた」と述べておられます。

にとつて、大屋先生の折に触れての励ましの便りや伝言は、大きな力となったことと思ひ、「古き良き時代」の師弟の関係が偲ばれます。大屋先生の昭和22年の書き初めは、私が忘れていた間に、父親の知人の厚木の経師屋さんの手で掛け軸に仕上がっていました。材料等から推察すると昭和30年以前のことだと思います。

藤沢戸陵会

4年ぶりに支部総会参加

第19回藤沢戸陵会総会が昨年3月5日(日)、江ノ島・丸だい仙水で開催、同窓生等19名参加。総会には、藤沢へと名称を変更してから、4回目。江ノ島での開催は2回目です。総会前に、記念写真の撮影(井出・高24回)。総会は、幹事長(内野・高17回)の司会進行で、物故者への黙祷から泊瀬川会長(高14回)の挨拶の後、平成28年度報告の事項(事業・会計等・役員改選)、平成29年協議的事項(事業計画・予算・他)が承認される。事務局(大貫・高17回)来賓の曾根会長、佐藤校長の祝辞。懇親会は、挨拶(井出・高11回)の挨拶で始まり、乾杯の音頭(矢部・高10回)をいただき、旧交を

ぶりにその掛け軸は私の手元に戻りました。我が家は、父が中16回、二人の叔父も中28回と32回、兄が高1回小生が4回、そして長女が高36回と母校出身者が揃っているのだが中でも私は6年の間、戸室が丘で学んだことは大きい。特に、徒歩での通学は現在でも元気を保っている源であると確信しています。87歳で旅立たれた大屋先生に直接お会いになったことのある人も少なくなくて来た昨今、私の中学生時代の小さくも重い思い出の一つとして、また、「質実剛健」を旨とする学校の出身者としては、現代の風潮に逆らっても、この心得を貫いていきたいと考えています。

温め楽しい同窓会となりました。話題一杯。最後に恒例の校歌の斉唱。がんばれ藤沢(志村・高24回)がんばれ厚木(加納・高20回)。当日、次のようなお話があったと記憶しています。28年度の事業(相模湾を望む地での引綱)が荒天のため、実施できなかつたことに関連する応答。母校の発展のため同窓会の財源を増やし在校生支援に役立たせたい。部活動のダンスドリル部がアメリカで大会に出場し、活躍中との事でした。総会当日、春の江ノ島は天候に恵まれ温かく、多くの観光客で満ちあふれていました。人並が参道からこぼれそう。明治時代に江の島村と片瀬村が合併して鎌倉

群川口村となる。宮原村、打戻村、瀬郷村、用田村、葛原村、葛浦沢村が合併して高座郡御所見村となる。合併時の思案により新たな名称になる。江の島は人口減700人には届かず。高齢化率は40%。観光客は外国人が急増してはおおむね1800万人に届く観光客数。住民の数の3.7倍にびつくり。数年前地引綱行事の際、交通渋滞のなか私がシラスを丸だい仙水二見幸雄宅へとりに行ったとき「約束の時間によく来れましたな」と労ってくれました。私は50歳代自宅から30分ペダルをこぎ、海岸(地引綱会場)へサイクリング車で行きます。当然江の島へは自転車使用。観光協会の会長二見幸雄氏と内野樹美戸陵会会長は親しい中でありましたので安心して。丸だいの美人女将にお会いするのも久しぶりでしたが、なにか寂しいような感じを受けました。昨年11月15日二見氏は急逝されたのです。(私の母も11月15日に永眠)ご冥福をお祈りします。物故者に黙祷。オリンピック大会セーリング会場となる江の島開催を前に周辺整備対策がニュースとなって注目されています。旅心が生まれる海の幸の食事処、来年の総会会場も江ノ島丸だい仙水に予約するそうです。インターネット、スマホ等で藤沢市地産地消の情報ポータルサイトや藤沢市湘南江の島いつでもおいでよをアクセスして藤沢産の食べ物情報の魅力を感じてください。4年ぶりの支部総会26人の顔は懐かしい顔、初めて見る顔6人。当日欠席した2人の顔は見ることは出来ませんが知己の人。初めて見る顔については、お互い様です。これからもよろしくお願ひします。

さくら戸陵会

特別講演は

林家つる子さんの落語

葛貫 裕子(高28回)



アミュー厚木9階で開催された第5回さくら戸陵会総会

11月12日、第5回さくら戸陵会総会がアミュー厚木9階にて開催されました。今年、私は初めて役員となり、この総会の担当となりました。一般の会員として参加していた時は、「ああ、楽しかった。有意義なひとときだった」と思うだけで良かったのですが、役員となるとそうはいきません。何度も集まり、いかに運営するか、講演はどなたをお呼びしてどんな話をしていたらいいかと、抜かりなく準備をする為、皆で知恵を出し合いました。何より会員の皆様を楽しんでいただくにはどうしたらいいかと、あれこれ頭を悩ませました。



平成6年に9回生有志により母校玄関脇に記念植樹された3種のハナモモは今年も綺麗に開花

念願の柔道部で山崎勝治先生に鍛えられ「力・必・達」の道場訓を卒業後も心がけ八千代銀行(元信用金庫)を定年まで43年間勤めました。退職後は息子の事務所の手伝い。以下取り組んだ主な活動を紹介します。昭和59年12月、相模原市内に開設した上溝支店に勤務。現横山公園に県立園芸試験場相模原分場があり、柔道部で共に稽古した学友岡部誠君が勤務し再会。その後彼らは桃を改良し、地域の伝説から「照手紅・照手桃・照手白」と命名して、昭和61年3月3日、観賞用品種3種類の種苗登録。現在のハナモモが誕生した。平成元年1月、橋本で第1回の相模原戸陵会(当時は両青会)に参加、今年30回の節目の年。平成6年3月、母校へ3種のハナモモを岡部君ら9回生有志で植樹。「努力すれば必ず花が咲く」豊

相模原戸陵会

地域の活性化に30年 同窓の絆に感謝

安藤 和次郎(高9回)

かな高校生活を願ひ申し入れた。毎年玄関脇に開花している。同年相模原市制40周年記念。八千代銀行淵野辺支店で所属の相模原オータリークラブの委員として幼稚園等へハナモモの普及と配布を提案し緑化推進に協力。平成12年、照手姫伝説とハナモモの市内外へのアピールを学友根岸信行君らで提言。「第10回全国をめぐりサミット相模原」を名誉会長小川勇夫市長(高1回)らと官民一体で開催。翌平成13年7月「さがみでてるて姫の会」設立。伝説ゆかりの地の小学校と市内5小学校が参加して「短歌俳句でつなごうてるて姫伝説」を企画、郷土愛の醸成を願う。市の後援で10年間毎年表彰と冊子発行。発行作品は計1万点、うち小学生は9千点を達成。平成14年1月、和歌山県田辺市の小栗伝説と相模原の照手伝説の会は協定を結び、以後10年間交流。交流5周年には熊野へツアー参加湯峯王子社近くの熊野古道沿いに相模原と田辺両市長らでハナモモを記念植樹。会解散後も後援会で継続中。市民桜まつりには毎年地元産のハナモモと地酒「てるて姫」を田辺市と並んで販売。平成16年、市制50周年記念事業「さがみはらまち自慢50選」歴史文化財部門で「照手姫伝説」当選。橋本駅北口「杜のホールはしもと」入口に照手姫の像建立。橋本七夕

清川戸陵会

清川の「光と影」、そして未来へ

副会長 山田 和彦(高24回)

清川村立緑小学校の校庭に一つの石碑がある。その碑には、昭和48年(1973年)、同校が現在の地に移築された時、当時「今太閤」と呼ばれた「田中角栄」総理大臣から贈られたことが刻まれている。「未らいに 海となるべき 山水も しばし木の葉の 下くぐるなり」と書かれている。これは、もちろん、田中氏が、同じような寒村であった新潟の「二田村」出身であったため、贈られたものではない。昭和46年(1971年)、特定多目的の「宮ヶ瀬ダム」事業がスタートしており、その補償交渉が難航している最中のことである。確かに、神奈川の上水道や工業用水道の確保、また日本の大動脈である「東海道新幹線」や「東名高速道路」に対する万全な治水対策には、その必要性が叫ばれていた。時が進み、徐々に補償交渉が進展する中、「狭い県道を「フェラーリ」が走っている」「厚木宮の里に「ダム御殿」が建っている」等の揶揄にも似た心無い声が聞こえた時もあった。ところで、計画発表から29年後の平成12年(2000年)12月、「宮ヶ瀬ダム」は完成した。完成当初「豊かな緑と水」をキャッチフレーズに多くの人を集めた。「大きなクリスマスツリー」を見るために交通渋滞で時間内に現地まで行きつけない人々が不満を漏らした時期もあった。それから、さらに17年の時が経ち、全国各地ではクリスマスイベントが多様多様化し、今の人気は「スカイツリー」からの夜景のようである。さて、清川村は以前の穏やかさを取り戻した一方ダムの補助金が打ち切られ財政難に陥っているように思われる。このような困難な状況の中、未来に向けて、前述の石碑の裏面に打開するヒントがあるように感じられる。それは、「次の時代を担う子どもたちに、よりよい教育の場を与え、子どもたちがそれぞれの才能を伸ばし、立派に成長してくれること」だ。ダム完成と「米百俵」と叫ばれた時期とが奇妙に符合するのは感慨深いことである。高、清川戸陵会は平成28年10月15日の総会で役員を改選し、次のような陣容となった。

- 会長/下嶋 和美(高20回)
- 副会長/山田 和彦(高24回)
- 会計/山口 朝生(高25回)
- 書記/落合 秀夫(高27回)
- 監査/岩沢 澄夫(高18回)
- 監査/下嶋 清一(高19回)

玉川・森の里戸陵会

“ふるさと先生”の高橋増次さん(高11回) しめ縄づくり約半世紀

玉川・森の里戸陵会の前会長でありました高橋増次氏(高11回)は、厚木高校を卒業後横浜市消防局に入局され、昭和40年に創設された特別救助隊に入られご活躍されてきました。その間、休みの日には家業であった農業にも従事、消防局退職後は農業に専念されて



しめ縄は、皆さんがよくご存じのように、農家では各家で飾るもの自分で作るのが主流で、高橋さんも消防局に勤務しながらも自家用のものと人に頼まれたものを作っておられました。本格的にしめ縄づくりに取り組まれたのは今から45年前、そのきつ掛けをお聞きたら、意外にも「米の減反政策」とのことでした。



「ふるさと先生」の高橋さんはしめ縄づくりに約50年のプロ

全く耕作をしないと直ぐに荒地地になってしまふので、普通に田植えをして、穂が出る前に刈り取るという苦渋の選択をしたそうです。青田刈りといって刈り取った稲藁は当時、牛の餌に回っていました。青田刈りをした稲藁の活用についていろいろと思索しているときに、小田原の方ではしめ縄作りをしてもらえるという情報を得て、

小田原市の農協を通じて紹介していただき、何度か通って教えて頂いたそうです。しめ縄には、例えば神棚に飾る「こぼろメ」、玄関などに飾る「玉飾り」、門などに飾る「輪飾り」などいろいろな種類と規格がありましたが、そうしたものを本格的に作り始めたのです。しめ縄は8月に刈り取った稲藁を、風通しの良い

所で日陰干して使うのです。青々とした色を保つためには早くから作っておくと色が落ちるので、12月に入ってから作っています。今では、大小さまざまなしめ縄を自営の直売所の他、JAあつぎの「夢未市」などで販売しているそうです。

るさと先生」として、地元玉川公民館をはじめ森の里、南毛利公民館、JAあつぎ、近隣の幼稚園、小学校の保護者会などさまざまな所から「しめ縄づくり」の講師を頼まれるなど、毎年暮れの12月はたいへん忙しい日々を送っているそうです。

広報委員・三橋(高18回)

相川地区老友会会長

大貫隆広さん(高9回)に聞く

厚木市戸田にお住まいの大貫隆広さんは、高校100周年記念事業を推進するに当たって、厚木連合戸陵会の設立に努力された同窓生。ご自宅を訪問し、高校時代の思い出等のお話を伺った。

さんなどと一緒に、バスケット部と共に使った体育館で体操の練習に打ち込んだ。2年の秋に体調を崩して、不本意ながら体操部を退部。それ以降は、野球部やボクシング部のマネージャーをしたり、仲の良い仲間と一緒に遊んだりした。仲良かった同窓生に、櫻井晃(旧姓井上)君がいる。彼は、2年時に弁論大会で全国優勝、厚木の街をパレードした思い出がある。ボクシング部の山下達也君は、全日本で準優勝した。

大学時代に、地元相川地区で野球チームを作った。それが今でも続いている。運動が好きだったので、体力・健康には自信があった。全農神奈川に就職しても、体力が資本の各種業務等に動き回った。現在、大貫さんは、第二東名自動車道戸田地区対策委員会委員長、精進連理寺の総代、沖戸若宮八幡社総代、市老連理事などをこなし、戸陵会では9回生幹事会の代表を務めておられる。80歳とは思えないお元気で活躍の背景には若い時代に培った鍛えた体があると感じました。



若い頃から鍛えた体で各分野に80歳とは思えない活躍を続ける大貫さん

多面でも活動している厚高の吹奏楽部は、相応の歴史をもっています。今から70〜80年前の厚高吹奏楽部といえ、県央では唯一で、全他校にはありませんでした。交流のあったのは、湘南高校くらいで部員も少人数、楽器一つ買うにも予算がなく四苦八苦したものです。当時、トランペットはなくホルネット、トロンボーンもスライド式でなくバブル式のものでした。吹奏楽部は、応援用に頼りにされ、運動各部の壮行会等では、必ず参加し校歌、応援歌などで盛り上げました。なかでも、たびたび優勝したマラソンでは、ゴールの横浜・野毛山へ。野球では準決勝まで進んだので、保土ヶ谷球場ま

南毛利戸陵会

吹奏楽部を創設した

安田伸(秀峯)さんを偲ぶ

吉岡 章(高5回)

指導は安田伸さん(高3回、東京芸大卒)で、音楽の先生は、安田さんにまかせきりでした。一世を風靡したクレイジーキャッツでサクセス、クラリネットを

担当していた安田伸さんは芸大を卒業する時、実はN響に入りたいとの相談(自宅にて)がありました。第(芸大卒)の学費を稼ぐために、クレイジーをやめられな

く銀座でライブをやっていました。小生は日本橋に勤務していたのでその都度、電話があり、友人と聞きに行きました。大きなライブは、赤坂プリンスホテルで開催し、その都度お手伝いをしたものでした。入場券は、いつも完売。というのも安田伸さんの方は、芸大と厚高の同窓生が中心。奥様(竹腰美代子さん)の方は、平沼高校(県立第一高女)で、草笛光子さんが親友であったため、入場券は、いつも完売で大盛況(約500人)。

堅いきづなの厚高同期生(高3回)のいつものメンバーは、山田野村証券副社長(東大卒)、庵日赤病院副院長(東大・医卒)等を中心に、多数の仲間がいました。

広報委員・毛利(高20回)

厚木戸陵会

好評だった初のBBQ

大沢 弘(高25回)

4月7日(土)相模川三川合流「花見の宴」を催しました。昨年からの会員の親睦が深められ



好天にも恵まれ、初の「花見の宴」は花よりパーベキューで盛り上がった

る行事、新会員を呼べる行事、興味のあるテーマなどで厚木戸陵会として企画検討をしてみました。その結果、まず手始めとして今回の花見を移行しました。2月中に場所、日時などを決めたため今年の開花と大幅にずれが生じてしまい、桜はほとんど散ってしまっていて葉桜パーベキュー

でも参加した会員は、雨上がりの広々とした会場で花の散った桜や穏やかに流れる相模川を眺めながら気持ちよく飲み、焼き肉に「うまい」を連発。そして和気藹々と談笑し心地よい時間が過ぎていくのを楽しみました。次は夏、納涼ビアガーデンを予定しています。

小鮎戸陵会

『あつぎ飯山あやめ会』の多彩な活動ぶり

会長 伊藤 桂(高16回)

厚木高校を昭和39年に卒業し五十年。今年73歳、後期高齢者の手前まで来てしまいました。現在は地元自治会長、老人会会長、お寺の役員、あやめ会の事務局兼会計等をやっています。私の故郷下古沢は、鄙びた里山

では、昔は近くの田や川にウナギ、ドジョウ、ハヤ等が多く生息していました。夏には蛍が乱舞し、それを捕まえ数帳(今の人は判らないかも?)の中に入れて楽しんでいました。しかし、平成14年晴天の霹靂の



老後は貯キンが大事

飯田 善一(高12回)

今年も又、節分の日に、小田原の近くの山北町にある信仰の寺で有名な東光院へ豆まきに行ってきた。そこで分かった事は、今年の恵方は南々東の方角で、自分の運勢は真黒々でありよくない。身体に十分気を付けて行動は慎重にする様にとのことであった。ところで毎年1月には厚高同期が益々大事で必要だそう。教育

とは「今日行く所」がある事、教養とは「今日何かしらの用事」がある事だと言う。なるほど、家中に閉じ籠って居ないでなるべく外に出掛けて行き、計画的に行動すれば惚けもせず健康でいられると言う事だ。そして今回は「貯キン」の話聞いた。老後は、特に貯キンが大事である。勿論お金の貯金は大切だと言っているが、それ以上に大事な貯キンのキンは「筋肉の筋」だと言っている。そう言えば最近足が痛く腰が痛く、正座が出来なくなってきた。運動不足で筋力が不足していると言われ、成程納



あやめ(花菖蒲)に続いて蓮(写真)や河津桜、彼岸花などの植栽にも力を入れている。

ごとく厚木市斎場の建設候補地として浮上し、自治会は大混乱になりました。紆余曲折がありました。結果的には平成24年3月に厚木市斎場は竣工し同年4月に開場となりました。今後は厚木市斎場と連携を深めて自治会活動を推進してまいりたいと考えております。小鮎地区に『あつぎ飯山あやめ会』があり、25年前から約500平方メートルの田んぼに、あやめ(花菖蒲)を育成管理しています。あやめは、約40種4000株が植えられています。毎年6月第2日曜日には厚木市の協力の基に『あつぎ飯山あやめまつり』を開催しています。開催当日は地元の皆様はもとより、市内外からの来場者の皆様と共にあやめを鑑賞し、また東京農業大学や東京工芸大学のバンドやパフォーマンズ・白龍太鼓・地元有志等の演奏発表もあり、楽しい一日を過ごしてあります。現在は三代目の会長である高16回卒の森久保純生氏を中心に『あつぎ飯山あやめ会』は活動しています。そして、あやめ会は、厚木市斎場が供用開始後、斎場の調整池周辺の除草及び植栽管理を厚木市から依頼され、毎月会員の自主的参加の基に管理を行っています。花を親しむ『あやめ会』としては除草・植栽管理だけでなく、厚木市の許可を得て斎場周辺に花々の植え込みを行っています。最近調整池周辺にあやめ150株を植え又調整池には水が充分ありますので引き続き蓮の植え込みもいたしました。毎年、立派に開花した蓮の花を観賞にご来場される方が、年々多くなり、あやめ会会員の自慢話の一つになっています。6月から7月には蓮の花が楽しめます。是非鑑賞に来て頂きたいと思っております。ちなみに蓮の花は朝方開花しますので午前中が良いと思っております。さらにはあやめ会、並びに地元自治会は、斎場の周辺に蓮を中心に、河津桜、彼岸花、水仙等の植栽・植栽管理もしております。河津桜は苗木を植樹したばかりなので10年先を楽しみにしております。斎場周辺で四季折々花を楽しみ、そして思い出話で安らぎを感じていただければと思います。努力を重ねてまいります。しかしながら、あやめ会の会員も徐々に高齢化が進み、将来の活動を危惧しています。皆様方で興味を抱かれた方がおられましたら是非ご協力をお願いいたします。

愛川戸陵会

大雪の日、忘れ得ぬ親父の背中

小島 和二郎(中43回)

毎年、雪の便りが聞かれる頃になると思い出す事がある。昭和19年4月、桜咲く憧れの厚木中学に入学した。当時体の小さかった私は、当初バス通学と思っていたが、同級生達は全員自転車通学という事で、やっとペダルに足が届く様な状態だったが、隣りが自転車屋だったのでサドルを下げたり色々調節してもらい、愛川線銀輪隊の一員として平山坂上に集合し5年間通学した。当時戦局は厳しさを増し、物資は乏乏し、当然自転車もその影響でパンクの頻度は高かった。然し銀輪隊の結束は固く、一人は利き手でパンク車のハンドルを握って引張り、他の一人は当該者を自分の自転車に乗せ自転車屋まで運んでくれた。

自転車通学にも慣れた1年3学期の事である。昭和20年2月22日



雪の厚木中学校。通用門前からの講堂(昭和20年)

現同窓会副会長伊藤藤治先輩から「100周年があるから、ちょっと顔を出してよ!」と声をかけていただいていたから早いもので15年が過ぎてしまいました。それまで戸陵会という名前を聞いたことはあっても関心が薄かったことは事実でした。100周年事業の準備委員会にて同窓生の名簿作りに携わらせていただき、各地区の多くの著名な同窓の方々にかきました。その後、仕事関係の総

睦合戸陵会

「同窓」を実感した「あの時」

吉川 昭(高26回)

会と同窓の先輩がお二人、来賓の挨拶をされました。お一方が三栖日本建築士事務所協会会長(当時、高11回)、もう一方が甘利経産大臣(当時)で神奈川県建築士事務所協会顧問。すぐに高20回卒という卒業回が100周年名簿を見ていたので浮かんできました。初めて名刺交換をさせていただきました。この名刺交換から数年後に起った日本の建築業界の重大事件終焉の

交替しながら進んだ。悪戦苦闘そのものだった。先の見通しも立たないまま、ただ黙々と自転車を押し進めるうち狭野の旧道、源氏河原辺りまで来た時、半原方面から人影らしきものが近づいて来る。暫くして「お前なんか、自転車なんか押して歩いてる」と帰り着けねえぞ」と云う大声がした。私の親父の声だった。近くの知り合いの家に自転車を預け、親父を先頭に平山坂を下る時には、側面の吹き溜りの雪は背丈位積もっていた。田代地区に差しかかる頃には日はどつぶり暮れ、淡い家々の灯火が点々と滲んで見える。今少し力を振り絞って前進した。馬渡り橋を過ぎ隠川位まで来た時、体力の無かった私は親への甘えもあつたのかも知れないが、恥ずかしながら遂にダウン。親父の背中世話になってしまった。今でもその温もりは脳裏に残っている。長い一日だった。

一部に繋がる事となるとは思いますが、一日の業務を終えようとしていた午後6時に事務所の電話が鳴り、スタンプが対応すると「所長何かしたんですか? 国交省の課長さんから電話です!」「えっ?」替わって受話器を持つと「明日、国交省に来てください」「明日は無理です。明後日に伺います」突然の連絡でした。この電話は、建築確認申請に日数がかかる事を甘利先輩に相談したことがきっかけでした。当時構造偽装により、木造住宅では最低14日、それ以外の建物では35日かかっていたのですが、実際には木造住宅で30日、それ以外の建物では100日以上かかる時もあったのです。協会の関係で甘利先輩の事務所に向うことがあり、当時の建築業界の大変な現状、経済の停滞等を相談させていただいた翌日の事の出来事でした。後日談になりますが、相談させていただいた翌日の開議の時に冬柴国交大臣にこの内容を話されたことを聞きました。数回、国交省の担当課及び担当者の方との会議により数か月後には良い状態に落ち着いたものであります。

100周年事業での名簿の作成に携わっていただければ、お二人との名刺交換はなかつたかもしれません。お二人のみならず、戸陵会には、日本というフィールドで活躍されている先輩、同輩、後輩の多くの皆さん、また、地元地域にご活躍の多くの同窓生の皆さんのお名前を拝見すると大変幸せに感じます。できることであるならば100周年以降の同窓生の活躍も広報できればいいなとも感じております。

荻野戸陵会

我が人生、至るところ同窓生とのつながりあり

会長 毛利 昇(高16回)

社会人としての私の第一歩は映画会社の日活(株)で、石原裕次郎主演の「黒部の太陽」が封切りの年でした。入社が内定した頃、親しくして頂いていた角派善一朗さん(高15回)に「日活に決まりました」と報告したところ、このほか喜んで頂きました。それには理由がありました。たまたま、日活の俳優の渡哲也が青学大の空手部で角派さんの先輩ということで、渡哲也主演の多くの映画に青学大の空手部の皆さんがエキストラとして出演されていたということでした。角派さんは広告会社に勤めて、有楽町の日活本社によく顔を出され、そうした縁で渡哲也とも知り合いになり、他の社員からもうらやましがられるようになりました。日活での思い出の一つは、裕次郎の印鑑をもらいに成城学園の自宅に伺ったときに、まさ子夫人(北原三枝)にコーヒを入れて頂いたことです。その後、日本観光協会(現在は日本観光振興協会)に移り、最後の部署で関東甲信越静の1都10県を所管の関東支部を担当しました。その時の支部総会前日の夕方のことです。総会当日、主賓として挨拶をお願いしていた国土交通省関東運輸局長から「急に観光庁長官との打ち合わせが入り、総会後の懇親会からの出席になる」との連絡があり、急遽、出席予定の北信越運輸局長の柳原拓治観光部長に代役をお願いしたところ、気持ち良く引き受けて頂きました。無事総会が終了し、懇親会の時、柳原部長に突然の依頼のお詫びを丁寧にし、情報交換をしている中で、偶然に柳原部長が厚高の後輩(高36回)ということが分かり、私が先輩ということで立場が逆転し、他の出席者の前で私の株が大いに上がったことがありました。神奈川県庁にも、同窓生の方が大勢おられ、観光課に足立原崇さん(高40回)がおられたことで、県庁との関係も極めてスムーズにいき、また、神奈川県観光協会の高瀬前会長は、厚木高校の創立100周年の式典にも小田原高校同窓会長として出席され、兄弟校としてのよしみもあり大変お世話になりました。現役時代には小田急電鉄(株)で長く観光を担当されていた今井義徳さん(高38回)を始め、各方面の多くの同窓生の皆さんにお世話になりました。また、最近では、子中自治会長、荻野地区自治連会長、厚木市自治連理事等を務めた際には、各地区自治会長、厚木市の職員の中の多くの同窓生に親しくお付き合い頂きました。保護司としても市内の多くの同窓生と交流を図りながら務めさせて頂いております。何れにしても、桜の花が日本人の魂であるように、人生の中で厚木高校というブランド力が魂となつて励まされ、大変誇りに思っています。感謝しているところです。

座間戸陵会

第30回支部総会開催される
講演は瀬戸氏の「厚高時代の思い出」

会長 山本 愈(高11回)

座間戸陵会では、平成29年総会を6月11日、座間神社「すいめい」で開催しました。総会後、講演として瀬戸宏孝氏(高4回)が厚高時代の思い出について話されました。大変貴重なお話なので、抜粋して以下掲載させていただきます。「厚本高等学校は県内3番目の中学校として明治35年に開設しました。用地買収等困難を極めたというのですが、多くの関係者の熱意により設置されたということですね。私は、その厚本中学校に終戦間もない昭和21年に入学しました。が、途中学制改正があり、3年で卒業のところ6年間在籍しました。それだけに、厚高に対する思いはひとしおのものがあります。

厚高の校風といえば、何といても「質実剛健」の気概に満ちた校風です。その校風の礎を作ったのが、初代校長の大屋八十八先生です。大屋校長は三河武士の流れを汲むといわれ、京都府立第二中学校の教師でしたが、当時38歳の若さで校長に任命され、以来大正14年まで実に25年間勤められ、厚本中学校の教育基盤を築かれました。

この中庭での教育は、最下級の4年間続けられました。この先輩達の「しごき」が私たち4年生を心身共に強く鍛え上げ、また反発のバネをも与えられ、さらに同期の絆を一層強めたと思っています。このような中で文武両道の面でも活躍し体操部、高校駅伝、弁論部、新聞部等輝かしい実績を上げ、厚高の名を全国的に高めました。さらに人材の面でも、茅誠司東大総長等多くの傑出した人材を輩出しております。

厚高出身であることに誇りと自覚をもって、さらに厚高の名を高めていきたいものです。

秦野戸陵会

今でも心の支えは
厚高時代の柔道部

高橋 昌和(高27回)



本年1月の秦野市長選挙において、多くの市民、同窓生の皆様から大変強いご支援をいただき、第8代目の市長として市政の舵取りを務めさせていただくこととなりました。改めて身の引き締まる思いとともに責任の重さを感じております。これまでの人生の中で一番の思

OB会/同期会便り



世代を超えて共に甲子園を目指す夢は今なお熱い

厚本高校野球部OB会(小松安弘会長、高18回)は、現役選手への援助や激励、講演会を行うなど、毎年、活発に活動を行っています。更にOB会活動を広げ世代で行うため、昨年2017年からマスターズ甲子園神奈川県大会に参戦しました。

全国で組織されるマスターズ甲子園では、県大会に優勝すればもちろん甲子園での全国大会に出場することが出来ます。4回までを34歳以下、5回以降を35歳以上で対戦するルールのもと、我が厚本高校OB会は、10代から50歳を超える選手まで和気あいあい試合を行いました。好プレーもあれば、お約束の珍プレーも続出...その

い出は何かと問われれば、私は迷わず、高校時代に所属した柔道部での最初の夏合宿を挙げます。私たち1年生部員(15名)と2年生部員(8名)、現役引退の3年生に加えて多くの猛者連OB諸氏が稽古に参加され、その数は日によっては現役部員を上回るほどでした。合宿は3泊4日と記憶しています。が、今では考えられないような大変厳しい稽古続きで、しかも酷暑を乗り越えた体験は今でも私の一番の心の支えになっています。

結果、2017年の初陣では、横浜商業OB(Y高)に勝利するなど予選ブロックを勝ち上がり、なんと県ベスト8にまで進出することができました。準決勝を掛けた桐蔭学園OB戦で敗退しましたが、参戦の初年度を素晴らしい成績で終えることができました。

これまで地域に根差した仕事に携わってきた中で、改めて同窓生の多さを感じますし、大変助けられることが数多くありました。校庭から望む「阿夫利の高嶺」の西側には、魅力と可能性にあふれた我がふるさと「秦野」があります。そのリーダーとして、市民一人ひとりがふるさとを自慢し、誇ることができるよう本物の魅力づくりに力を尽くしたいと、思いを新たにしているところです。

- ▽日時/平成30年6月10日(日) 午後5時~8時
- ▽場所/オークラフロンティア ホテル海老名 海老名市中央2-9-50 11046(235)9815 (海老名駅東口 徒歩5分)
- ▽会費/10,000円(当日)
- 代表幹事 古山 豊 090-2620-3446

19回同期会

戸室の丘を出て早52年、気がつけば年を重ねる事70年、人生節目の古希を迎えることとなりました。3回目の同期会を各クラスの代表幹事で企画しましたので、多数の方々のご出席を頂きますようご案内申し上げます。

同期の友と旧交を温め、青春を謳歌した頃の思い出を語り合いたいと思いますので、一人でも多くの皆様の参加を楽しみにお待ちしております。

同窓会本部役員・理事・支部役員 (平成29年6月24日現在)

【同窓会本部役員】

Table listing members of the Alumni Association Executive Committee, including roles like President, Vice President, and various committees.

【同窓会本部事務局】

Table listing staff members of the Alumni Association Executive Office, including roles like Director, Deputy Director, and various sections.

【理事】

Table listing members of the Board of Directors, numbered 1 through 35.

【各地区同窓会支部】

- List of regional alumni association branches, including Ise, Aino, Tsukuba, etc., with their respective presidents and staff.



http://www.atsukou-dousou.org

同窓会本部では、公式ホームページを開設しています。主な内容は次の通りです。

同窓会ホームページのご案内

- 「同窓会概要」
「同窓会役員紹介」/「会則」/「母校教育振興基金規定」/「活動活性化補助金交付要綱」/「会費」についてなど
「学校の歴史・校歌」
「治単の大事業」/「県立第三中学校創立略史」/「同窓会の歴史」など
「お知らせ」
「同期会・OB会情報」/「バックナンパー」など
「総会報告」
「総会資料」/「写真集」など
「支部会のご案内」
「各支部の活動報告」など
「同窓会会報」
「会報バックナンバー」/「各支部会報」
「部活OB会報」など
「動画や写真」など、多彩な内容でお伝えしています。

事務局便り

校内事務局スタッフ
今年は7名で
須藤福治先生の退職、三橋功先生、松田浩幸先生の転任にともない、今年度は魚谷志磨子先生、高橋幸一先生を新たに迎え、次の7名の人員で活動してまいります。
・事務局次長/谷田和久(高29回)
・事務局総務/谷田和久
・菅井久男(高31回)
・会計/本部/壺井尚子(高37回)
・魚谷志磨子(高36回)
・会計/部活動支援基金/内野秀明(高30回)
・高橋祐有(高56回)
・同窓会名簿/谷田和久
・高橋祐有
・魚谷志磨子
・菅井久男
・高橋幸一(高28回)

編集後記

●最近物忘れがひどい。半年後に古希を迎える身では仕方がないのかも。今回の編集で最大のトラブルが撮影済みのSDカードの紛失。昨年の同窓会行事を撮ったもので数ヶ月前の引越しの際どこかに仕舞い込んで、いくら探しても見つからない。撮影したシーンの数々は、はっきり頭の中に残っているから、病気ではなさそう。SFの世界なら、その記憶を映像に再現できるのに、現実にはまだ無理か。というわけで、今号も又多くの人にお世話になりました。
●お世話になったといえ、今年定年退職された加藤一彦教頭と須藤福治先生、転任の三橋功先生には同窓会報用の原稿・資料提供に毎回ご苦労をおかけしました。厚くお礼申し上げます。(I)

2017-19年度 広報委員会委員 (平成29年10月1日現在)

Table listing members of the Publicity Committee for the 2017-19 fiscal year, including names, roles, and contact information.